

「彫刻おもちゃ」に寄せて。

2011年3月11日、地震と津波とで我家は消滅しました。
母屋はもちろん、アトリエや倉庫も沢山の道具や数百点の彫刻作品ごと流されてしまいました。
その日私達家族は内陸に出かけていて無事だったのですが、
家で留守番をしていたワンコが行方不明のままです。
住んでいたところが福島第一原発から30km圏内だったため、
原発の爆発後は放射能を避けて新潟へ一時避難、
その2ヶ月半後には奈良県に避難移住しました。

震災から3週間後、自宅の状況を確認するために被災地に入りました。
基礎だけになった自宅跡に他の瓦礫が流れ込み大変な状況だったのですが、
そんな中、全くの無傷で見つかった物があったのです。
それはカミさんが、今は成人した娘が幼かった時に彼女に作ってあげた
手作りの木彫りの着せ替え人形でした。
お菓子の紙箱に入っていたそのお人形の横には
娘がお人形用に縫った小さな洋服がきれいに畳まれて並んでいました。
水も被らず泥も付かず何事もなかったように箱の中で微笑んでいるお人形に
私達家族は目を見張りました。
瓦礫の平原となった町を歩き回り、そろそろ帰ろうかという時、
自宅から遠く離れた瓦礫の上に見覚えのあるものが乗っているのに気付きました。
それは今は社会人になった息子が幼い時、私が彼に作ってあげた木彫りの自動車のオモチャでした。
不思議な気持ちでした。
どうだと言わんばかりの3m、4mある屈強な彫刻作品がみな無くなり、
子供たちに作ってあげた手作りのか弱いオモチャが私達の前に姿を現わしていました。
顔を上げると瓦礫の平原に地元の人が大切にしていた小さなお社が全くの無傷で立っていました。
強烈な破壊のエネルギーが交錯する時、次元を超えて存在できるものって何なのだろう・・・。
もしかしたらそれは他愛もない小さな真心や他者を想う優しい気持ちなのかもしれない。

今回の個展では彫刻人生で初めてオモチャを並べようと思っています。
彫刻家が作るのですから、彫刻ともオモチャともつかない摩訶不思議なものたちです。